

1. 論文の構成 ※英文論文の執筆要領は、本学会ホームページ上の Submission Instructions を参照ください。

論文の構成は、原則として表1の通りとします。ただし、「論壇」「総説」「実践報告」「研究プロトコル」「特別報告」「コメンタリー」「その他」の原稿の本文はこれにしたがう必要はありません。「実践報告」の本文の構成は、表2を参照ください。「研究プロトコル」の本文の構成は、表3を参照ください。

和文抄録は600字以内で作成してください。「システマティックレビュー」「原著」および「短報」の抄録は、目的・方法・結果・結論の項目で、内容をまとめてください。ただし、「総説」「実践報告」「特別報告」はこれに従う必要はありません。「実践報告」は、本文にあわせて、目的・事業／活動内容・事業／活動評価・今後の課題というまとめ方でも構いません。「研究プロトコル」は、「緒言」「方法」「考察」とします。「論壇」「コメンタリー」「その他」は、抄録は必要ありません。また、「コメンタリー」「その他」の文献は、5つまでとします。

英文抄録は採用の通知を受けた後、プロによる英文校正を受けてから、最終原稿とともに速やかに編集委員会事務局に提出してください。英文抄録は「総説」「システマティックレビュー」「原著」「短報」「実践報告」「研究プロトコル」「特別報告」に必要であり、字数制限は250 words 以内です。ただし、英文タイトル、著者英語名はすべての原稿において必要です。

本文内には「利益相反」の項目を設け、全著者の本原稿の内容に関連する利益相反状態の開示をお願いします。「関連する」とは本原稿の内容によって営利または非営利の第三者の利害に影響を及ぼす可能性があるあらゆる関係を意味します。なお、利益相反の開示は必ずしもバイアスの存在を示すものではありません。開示すべきかどうか疑問に思える場合は開示することが望ましいです。

またすべての論文で本文内には「生成 AI 使用の開示」の項目を設け、論文作成における生成 AI の使用に関する情報の開示をお願いします。

表1 論文の構成

項 目	内 容
原稿の種類	日本健康教育学会誌「投稿規程」の表1 原稿の種類を参照ください。
表	
タイトル	短く、しかも内容を表してください。
著者名	著者全員の氏名。
所属名	著者全員の所属（右上付き文字で ^{*1,*2} を使い、著者名と対応させてください）。
紙	
抄録	600字以内（目的・方法・結果・結論でまとめる。ただし、実践報告は、本文にあわせて、目的・事業／活動内容・事業／活動評価・

	今後の課題というまとめ方でもよい).
キーワード	3～5 個 (原則として MeSH キーワードを使用).
連絡先	責任著者の住所・氏名のほか, 希望により電話・FAX・E-mail も掲載可.
ランニングタイトル	主タイトルが 25 字を超える場合は, 25 字以内のランニングタイトル.
ページ数	表紙から文献までの, 1 ページ 2,100 字である場合の総頁数.
図, 表, 写真数	図, 表, 写真, それぞれについての枚数.
タイトルページ	タイトル, 抄録, キーワード, ページ数, 図, 表, 写真数のみを記したページ.
I 緒言 (はじめに, など)	背景と目的.
II 方法 (対象と方法, など)	対象と方法. 倫理的配慮に関しても記述してください.
III 結果	結果は, 図・表などを使いわかりやすく示してください.
IV 考察	論理的に矛盾や飛躍がないようまとめてください.
V 結論 (結語, おわりに, など)	結論は, 研究結果から導かれる特徴的で具体的な結論としてください.
謝辞	(必要な場合)
文	
生成 AI 使用の開示	原稿執筆・図表作成等において生成 AI を補助的利用した場合はツール名, バージョン, 使用目的を開示してください. 使用していない場合でも, その旨を記載してください. (例: 本論文の作成において生成 AI は使用していない)
利益相反	利益相反に該当しない場合でも, その旨を記載してください. (例: 利益相反に相当する事項はない)
文献	執筆要領の「2. 原稿作成上の注意」にしたがい, 引用順に示してください.
匿名化した本文	謝辞や助成金情報, 倫理委員会名など, 本文のうち投稿者が特定される可能性がある情報の部分を黒塗り, あるいは●などの記号に置き換えたもの.
図・表・写真	1 頁に 1 枚ずつ作成してください. 図は, 原則として, そのまま掲載できる明瞭なものとしてください (タイトルは, 図と写真は下, 表は上に掲載. 表では縦罫線を使いません).

補足資料（電子付録）	補足資料は、読者が論文を理解する上で不可欠ではないが付加的な資料として提供される。補足資料は、データ、テキスト、音声、動画ファイルなどで構成され、受理された論文と共にオンラインで公開される。補足資料も査読の対象となるため、著者は原稿提出の際には最終版を提出しなければならない。原稿受理後は、著者は補足資料に変更を加えることはできない。
------------	---

※「総説」「システマティックレビュー」「原著」「短報」「実践報告」「研究プロトコル」「特別報告」は、採用の通知を受けた後、プロによる英文校正を受けてから、最終原稿とともに英文抄録を提出してください。

英文抄録	英文タイトル	タイトルの英訳（文頭の単語のみ大文字使用）。
	著者英語名	著者全員の氏名の英文。
	所属英語名	著者全員の所属の英文（右上付き文字で*1,*2を使い、著者名と対応させてください）。
	抄録	和文抄録の英訳。英文 250 words 以内。
チェックリスト 投稿票 （投稿サイトを使用しない場合）	キーワード	キーワードの英訳（原則として小文字使用）。
		投稿日、原稿種類、タイトル、英文タイトル、著者名、著者英語名、責任著者の連絡先（住所、氏名、電話、FAX、E-mail）を、
		A4 判 1 枚に記載してください。（様式はホームページよりダウンロードすることができます）

表 2 「実践報告」の本文の構成

本文	I 目的	事業や実践活動の目的。
	II 事業／活動内容	事業や実践活動内容の説明、倫理的配慮に関しても記述してください。
	III 事業／活動評価	事業や実践活動の結果やそこから得られた成果等。
	IV 今後の課題	実践の結果、次に行う際の注意点や今後似たような活動をする人々へのアドバイス等。
	謝辞	（必要な場合）。
	利益相反	利益相反に該当しない場合でも、その旨を記載してください。 （例：利益相反に相当する事項はない）
	生成 AI 使用の開示	原稿執筆・図表作成等において生成 AI を補助的に利用した場合はツール名、バージョン、使用目的を開示してください。使用していない場合でも、その旨を記載してください。（例：本論文の作成

		において生成 AI は使用していない)
文献		執筆要領の「2. 原稿作成上の注意」にしたがい、引用順に示してください.
表 3 「研究プロトコル」の本文の構成		
本 文	I 緒言	背景と目的
	II 方法	対象と方法. 準拠した報告ガイドライン, 倫理的配慮や公開データベース等への登録情報に関しても記述してください. ※公開データベース等への登録は, 介入研究は必須, 観察研究は奨励としています.
	III 考察	本研究で期待される成果や, 実践への応用について記載してください.
	謝辞	(必要な場合)
	利益相反	利益相反に該当しない場合でも, その旨を記載してください (例: 利益相反に相当する事項はない).
	生成AI使用の開示	原稿執筆・図表作成等において生成AIを補助的利用した場合はツール名, バージョン, 使用目的を開示してください. 使用していない場合でも, その旨を記載してください. (例: 本論文の作成において生成AIは使用していない)
	文献	執筆要領の「2. 原稿作成上の注意」にしたがい、引用順に示してください.

2. 報告ガイドラインの準拠の推奨

- 1) 研究の報告にあたり, 最新の標準化された研究報告ガイドラインに準拠することを推奨します.
例えば, ランダム化比較試験は CONSORT (Consolidated Standards of Reporting Trials), 行動介入および公衆衛生的介入を評価した非ランダム化比較研究は TREND (Transparent Reporting of Evaluations with Nonrandomized Designs), 観察研究 (追跡研究や横断研究など) は STROBE (Strengthening the Reporting of Observational Studies in Epidemiology), 複数の構成要素による多様な行動や相互作用を含む (複雑な) 介入プログラム評価研究の場合は CReDECI 2 (Criteria for Reporting the Development and Evaluation of Complex Interventions in healthcare), 等です.
- 2) 以上を含め報告ガイドライン全般のデータベース EQUATOR (Enhancing the QUALity and Transparency Of health Research; URL: <https://www.equator-network.org/>) で研究デザインに応じた適切なガイドラインを検索できます.
- 3) 研究プロトコル論文では, 方法セクション冒頭に, 研究デザインと併せ, そのプロトコルがどの研究報告ガイドラインに準じているかを引用とともに明記してください. 記載内容の例は以下で

す。

(例) 本研究は、非ランダム化比較研究デザインである。本研究プロトコルは、非ランダム化比較研究の報告ガイドラインである TREND 声明¹⁾に準拠して作成した。

3. 原稿作成上の注意

- 1) 本文は、A4 判横書き（用紙は縦）で余白を上下 35 ミリ、左右各 40 ミリ、1 行あたりの文字数を 30 字、1 ページあたりの行数を 35 行に設定してください。執筆にあたって和文原稿は明朝体、11 ポイントで作成してください（本学会ホームページより、フォーマットのダウンロード可）。英文抄録はダブルスペース、フォントは Times New Roman、12 ポイントで作成してください。
- 2) 表紙から文献まで通し頁および通し行番号をつけてください。
- 3) 本文中の文尾では「…考え（られ）る。」「…考え（られ）た。」という表現は避けてください。
- 4) 「わが国」という表現は避け、国名を明記してください。
- 5) 暦年は原則として西暦で記載してください。
- 6) 英文は、必ず英文校正業者か英語が母国語の専門家による校閲を受けてください。
- 7) 数字は算用数字を用い、数字・英字は半角としてください。
- 8) 句読点は、全角のピリオド「.」コンマ「,」を用いてください。
- 9) かぎ括弧、丸括弧が連続する場合は、読点「,」を打たないでください。（例：この分析から得られたキーワードは「正確性」「信頼性」「重要性」であった）
- 10) 抄録および本文中には、研究デザインを明記してください。アクションリサーチの場合もその旨を抄録および本文中に明記してください。
- 11) 研究倫理審査の承認を要する研究の原稿では、方法セクション内の倫理的配慮に関する項において、審査した研究倫理委員会名、承認番号、承認年月日を明記してください。
- 12) 対象者数を表す N および n の表記は“American Medical Association Manual of Style”に従います。研究対象のサンプルサイズ全てを表すときに N を用い、サブグループのサイズを表すときに n を用いてください。（例：過去 1 か月に緊急入院した患者を分析対象とした（N=127）ところ、狭心症患者が最も多かった（n=38）。）
- 13) 有意確率を表す記号は“American Medical Association Manual of Style”に従います。「P」とし大文字斜体で標記し、前後は半角スペースをおいてください。また表中のタイトル部分では、「P 値」あるいは「P value」とせずに「P」とだけ示してください。
- 14) 和文論文で統計学的有意検定の種類を示すときはできる限り日本語あるいはカタカナで示してください。（例：t 検定、マン・ホイットニーの U 検定）
- 15) 図、表、写真は、1 頁に 1 つとし、図 1、表 1、写真 1 などの通し番号をつけてください。また、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定してください。
- 16) 画像や写真は 300dpi 以上の解像度のものを用いてください。
- 17) 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の許諾を得て、図や表の下に出典を明示してください。
- 18) 本文中での文献引用は、引用順に、右上付き文字を用い、¹⁾あるいは^{1), 1,2), 2,5-7)}などの番号で示してください。またコンマやピリオドがある時はその前に数字を表記してください。（例：…である^{1, 2)}。）

19) 著者らの研究成果を本文中に引用し、さらにその主体を本文中に記載する場合、「筆者らは…」 「著者らの研究によると…」 などとは記載せず、「○○らは…」 「○○らによると…」 など姓を記載してください。

20) 文献の記載は下記のとおりとします。

- (1) 著者などが複数の場合は、3 人目までは全員を記載し、4 人目以降は省略して「○○○○，他。」 または「XXXXXXXX, et al.」としてください。
- (2) 英文雑誌名は、MEDLINEなどを参考に、定められた雑誌略称を使ってください。和文雑誌名は、略記せずに記載ください。
- (3) 引用文献記載において、コロンやセミコロンの後は半角スペースを空け、ハイフンも半角を使ってください。なお日本語文献は全角のコロン、セミコロンのスペースなしとしてください。
- (4) 文献リストの英語文献では文献名、書籍名は冒頭の単語と固有名詞のみ大文字とし、あとは小文字としてください。(例) ×Health Behavior, ○Health behavior.
- (5) 文献リストの英語文献タイトルで、「:(コロン)」のあとは小文字ではじめてください。(例) Effect of advocacy on healthy food eating: a cross-sectional study.

① 雑誌の場合

- ・ 宮坂忠夫. 健康教育の変遷・現状・今後の課題. 保健の科学. 2000 ; 42 : 508–513.
- ・ Yoshimura N, Jimba M, Poudel KC, et al. Health promoting schools in urban, semi-urban and rural Lao PDR. Health Promot Int. 2009; 24: 166–176.
- ・ (オンラインジャーナルの場合はページ範囲ではなく論文番号で良い) Togari T, Yonekura Y. A Japanese version of the Pearlin and Schooler's sense of mastery scale. Springer Plus. 2015; 4: 399.

② 単行書の場合

- ・ 松下祐. 健康問題の構造とその実態の把握. 久常節子, 島内節編. 健康教育と学習. 東京: 医学書院; 1994. 14–54.
- ・ Green LW, Kreuter MW, Deeds SG, et al. Health education planning. Palo Alto: Mayfield Publishing; 1980. 18–32.

③ 訳書の場合

- ・ グリーン LW, クロイター MW. 神馬征峰訳. 実践ヘルスプロモーション—PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価. 東京: 医学書院; 2005. 10–18.

④ 同一文献の別の頁を引用する場合

- ・ 川田智恵子. 前掲書 3) : 52–64.

⑤ ホームページ, インターネットウェブサイトからの引用については引用内容が明確に記載されている URL を示し, アクセスした年月日を () 内に記載します. 書籍とウェブサイト双方に同一の引用文献がある場合は, 書籍を優先引用文献とします.

(ウェブサイトから引用する場合)

- ・ 厚生労働省. 健康日本 21. http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/sOf.html (2008 年 12 月 30 日にアクセス).

21) 統計解析の記述の方法については「統計データ・記載方法等に関するガイドライン」(本学会ホームページよりダウンロード可) に基づき定められた方法で記載してください。

- 22) 査読後の注意, 対応については, 日本健康教育学会ウェブサイトの論文 Q&A をご覧ください.
- 23) 学会主催セミナー等を含む学会活動に関する報告を執筆する場合には, タイトルまたはサブタイトルに「〇〇研究会〇〇年度活動報告」などをつけ, 学会活動の報告であることがわかるようにしてください. また, 「利益相反」のセクションの前に「追記」セクションを設け「本稿は日本健康教育学会〇〇研究会の〇〇年度の活動内容を報告したものである」等の説明を記載してください.
- 24) 研究の設計・介入・データ生成・データ処理等に生成 AI または AI システムを用いた場合は, 方法のセクションにおいてその内容を明示する必要があります. 記載には, ツール名, 提供者(会社)名, 使用したモデル名またはバージョン, 使用目的及び具体的な使用方法の説明のほか, 研究者の関与の程度を含めることが推奨されます. AI を介入として用いるランダム化比較試験を報告する場合は, CONSORT-AI 等の関連する報告ガイドラインに準拠することを推奨します. 方法セクションに記載した場合は「生成 AI 使用の開示」欄には改めて詳しく記載する必要はなく, 例えば「方法セクションに記載済み」と記載してください.
- (例 1) 本研究では, 行動変容支援の介入として生成 AI を用いた対話型支援を実施した. AI には ChatGPT (GPT-4o, OpenAI) を用い, 研究者が設計したプロンプトに基づき応答を生成した. 生成内容は自動出力されたが, 研究者が運用条件を管理した.
- (例 2) 質的データの分析において, Gemini (Gemini 1.5 Pro, Google) を補助的に使用した. 逐語録の初期コード生成および要約の作成に AI を用いた後, 研究者が内容を精査し, コードの統合およびテーマの確定を行った. 全コードは筆頭著者および第 2 著者が独立して検証し, 修正を行った.
- (例 3) データ解析用の R コードの作成に Codex (OpenAI, GPT-5.1-Codex) を使用した. 生成されたコードは著者が内容を確認し, 動作検証を行ったうえで使用した.
- 25) 生成 AI 技術を使用して原稿のコンテンツを作成, レビュー, 編集する場合, 使用後に著者は記載内容を確認し必要に応じて編集をする必要があります. そのうえで著者は「生成 AI 使用の開示」セクションで, 使用目的, ツール・サービス名および提供者(会社)名, 使用したモデル名またはバージョンを報告する必要があります. また続けて「使用後著者が内容を確認し, 必要に応じて修正を行いました. 本論文の内容については著者が最終的な責任を負います.」旨を記載してください.
- (例) 「本研究および論文作成の過程において, 著者は Claude (claude-sonnet-4.6, Anthropic) を, 文字数制限のための圧縮作業, フローチャートの作成, 英文抄録の表現改善の目的で利用しました. 生成内容は著者が確認し, 必要に応じて修正を行いました. 本論文の内容については著者が最終的な責任を負います.」

附則: 1. 本執筆要領の改正については, 編集委員会の議を経て行い, 理事会に報告する.

2026 年 7 月 21 日改正